



道徳だより

2025.12.3 号
みよし市立緑丘小学校



6年生「生きることをあきらめない」(内容項目D よりよく生きる喜び)

ねらい

死を覚悟しながらもよりよく生きようとする大津コーチの気持ちを感じ取り、自らも人として生きることの喜びを感じ、よりよく生きようとする心情を育てる。

授業の様子

めあてを「前向きに生きるとはどんな生き方だろう」として子どもたちに提示しました。よく「前向きに」という言葉を使うことがあります。生きているとよいことも悪いこともさまざまなことが起こります。悪いことが起こるとつい弱気になりますが、どんな時でも人は精一杯よりよく生きようとする強さをもっていることを理解したい。そして、自らも人として生きることの喜びを感じ、よりよく生きようとする意欲を高めたいと考え、授業に取り組みました。

教材名「生きることをあきらめない」の概要

最後の野球の大会で何としてもレギュラーに入りたい弘志は、接骨院で大津コーチと奥さんに出会った。でも、僕の知っているコーチじゃなかった。大津さんは僕の少年野球チームのコーチだ。バッティングのアドバイスをくれたり、いつも励ましたりしてくれる。コーチのおかげで野球を続けられている。そんなコーチが ALS という難病にかかったらしい。だからこそ、最後の大会で大津コーチに優勝というプレゼントを届けようとチームの練習にも力が入った。しかし、久しぶりに出た試合で右の足首を痛めてしまった。次の日、大会のレギュラーが発表されたが、そこに僕の名前はなかった。また、接骨院へ行くと大津コーチと再会した。コーチの小さな声に思わず涙があふれた。車いすになった姿は僕の知っているコーチとはまるで別人だ。伝えたい言葉は声にならず、涙が床に落ちるばかりだった。大会初戦、僕たちのチームは接戦をものにして勝った。ぼくは試合には出なかったが、思いっきり大きな声を出して応援した。この日、署名活動のお礼をかねて、コーチの奥さんが応援に顔を出してくれた。渡してくれた紙袋の中には、バッティングの本とコーチからの手紙が入っていた。手紙には「足治るから治せ あきらめるな 俺も生きる」と書かれていた。コーチの手紙を何度も読み返しながら、ぼくはじっと考えていた。

まず「前向き」という言葉からどんなイメージをもっているか尋ねると「**プラス思考」「何事も楽しく」「ポジティブに**」と答えていました。範読のあと「接骨院で大津コーチを見てどう思ったか」と問うと「**いつもと違う」「信じたくない」「早く離れたい**」などの悲しく、気まずい気持ちが出されました。レギュラーになれなかった弘志は、後日接骨院で大津コーチと会います。「そこで声をかけてもらったときの弘志はどんな思いだったか」と問うと「**よい報告ができなくて悔しい」「とても悲しい**」など自分に情けなくなる弘志の心情をよくつかんでいました。続いて「もらった手紙をどんな気持ちで読んでいるのか」と問うと「**あきらめたら終わり。コーチみたいにがんばる」「もっとうまくならないと」「コーチもがんばっているのだから、自分もがんばる」「いつかよい報告ができるようにしたい**」とどんなことがあっても自分をあきらめずに前を向いて歩いていこうとする強い心をもった弘志に自分を重ねて答えていました。つらいことがあると途中でやめてしまったり、あきらめてしまったり弱い自分に負けそうな時がいつかやってくるかもしれません。そんなときはこの話を思い出し、よりよく生きようとする心の強さが自分にも必ずあることを思い出してもらいたいです。

